

プレスリリース

ヘレン・カモック、ホワイトチャペル・ギャラリーの協力による マックスマラ アート・プライズ・フォー・ウィメンを受賞

ホワイトチャペル・ギャラリーのディレクターで大英帝国勲章受章者でもあるイウォナ・ブラズウィック OBE は、2018年4月16日にホワイトチャペル・ギャラリーで開催された授賞式において、第7回 Max Mara Art Prize for Women(マックスマラ アート・プライズ・フォー・ウィメン)の受賞者としてヘレン・カモックが選出されたことを発表しました。2005年から2年ごとに開催されるマックスマラ アート・プライズ・フォー・ウィメンは、英国に居住し活動する、今までに個展を開催したことがない女性アーティストすべてを対象としています。

ロンドンを拠点とするヘレン・カモック(1970年生)は、優れた専門家の審査の結果、セリーヌ・コンドレッリ、エロイーザ・ハウザー、アテナ・パパドロウロス、マンディー・エル・サイエグといった最終候補者の中から選出されました。この受賞でカモックは、2018年の半年間イタリアに滞在し、自身の知見を深め新たな作品を制作する機会を得ました。作品は、2019年にロンドンのホワイトチャペル・ギャラリーで開催予定の大規模な個展で公開されるほか、イタリアのレッジョ・エミリアにあるコレツィオーネ・マラモッティにて展示されます。

ヘレン・カモックの作品は映像、写真、文学、詩、朗読、歌、パフォーマンス、版画、インスタレーションと多岐に渡ります。彼女の興味は、歴史とストーリーテリング、そして、日の目を見ない声なき声を掘り起こすことです。カモックは、自身の文学作品や詩、哲学などの文章を用い、それらを社会情勢や政治情勢の上にマッピングします。これまで、ニーナ・シモン、フィリップ・ラーキン、ジェームズ・ボールドウィン、マヤ・アングロー、ヴァルター・ベンヤミンらの作品を素材として取り入れた作品を生み出してきました。個と集団の間で揺れ動くカモックの刺激的な映像作品がそうであるように、こうした文章はしばしば彼女を媒体の選択へと向かわせます。

1970年代の英国で、英国人の母とジャマイカ人の父の間に生まれたカモックは、性別と肌の色、富と貧困、権力と脆弱性について疑問を抱きながら育ってきました。彼女の芸術活動は、自身の想像力に富んだ自主性に忠実でありながらも、人々との共同作業から得た経験や集団社会を意識することから生み出されます。

マックスマラ アート・プライズ・フォー・ウィメンを受賞したカモックの提案は、哀歌の表現にフォーカスしたものでした。カモックは、特にオペラやクラシック、フォーク、アート、詩、文学、ダンスを取り上げ、感情というものがいかにイタリアの文化や社会の中で表現されてきたかに焦点を当てています。それは、政治的かつ歴史的で、個人と集団における悲嘆や喪失を表す感情や声といった彼女の作品の中核を反映しています。そして、イタリアの歴史の中に埋もれた女性たちの声を探究し、コラージュや並置などの手法で現代に反映する哀歌の集合体を生み出すことを目指しています。

マックスマーラとホワイトチャペル・ギャラリーの共同企画である今回の滞在は、2018年5月にスタートし、ボローニャ、フィレンツェ、ヴェネチア、ローマ、パレルモ、レッジョ・エミリアの6都市に分けて行われます。そこでは主に、各地の指導者の監修のもと、カモックの関心が深い分野の専門家や学者、関連団体、専門機関と面会します。

まずボローニャとフィレンツェでは、イタリア文化の知識を確固たるものにするため、バロック芸術と建築、音楽史、文学史、社会学を学びます。この間、実践的な歌のレッスンも行われ、自身の歌唱能力をさらに伸ばすとともに、17世紀のオペラの前身となった哀歌を学びます。

ヴェネチアとローマでは、作品を制作するため、2つの著名な専門機関に滞在します。ヴェネチアのフォンダツィオーネ・チーニの、ザ・インターナショナル・センター・フォー・ザ・スタディ・オブ・イタリアン・カルチャーに、単独の研究者として滞在。専門的な図書館と文化的な取り組みを利用することができます。ローマのアメリカン・アカデミーでは、同機関の特別研究員として、音楽や歴史を含む幅広い分野を探究する国際的なアーティストたちとコラボレートする機会を得ることになります。また、ローマではさまざまな版画と印刷技術を学ぶため、インスティテュート・ナツィオナーレ・チェントラーレ・デッレ・グラフィカにも迎えられます。

パレルモでは、アーキヴィオ・エトノムジカレ・デル・メディテラーネオとパレルモ大学への訪問、そして、パレルモ中心地に住む女性たちや、今日のシチリアにおける新しい移民コミュニティとの面会を通して、シチリアにおける哀歌と女性の声についての概念を調査します。

最後に、その名が抜本的な保育教育モデルとして知られている都市、レッジョ・エミリアの滞在で幕を閉じます。カモックはその教育モデルの中でも、第二次世界大戦後に確立された、コミュニティと教育を再建するためのプロジェクトの構築について、特に関心を抱いています。このモデルを、現在レッジョ・エミリアの社会の片隅で暮らす人々との対話と一般参加型の調査を行うための指針として活用する予定です。

第7回マックスマーラ アート・プライズ・フォー・ウィメンの審査員団は、ホワイトチャペル・ギャラリーのディレクターであるイウォナ・ブラズウィック OBE が委員長を務め、ロンドンのギャラリー『カルロス／イシカワ』のギャラリストであるヴァネッサ・カルロス、過去に同賞を受賞したアーティストのローラ・プロヴォスト、コレクターのマルセル・ジョセフ、批評家のレイチェル・スペンスが名を連ねます。

ヘレン・カモックは、インタビューに対し、次のように述べています。

「このような素晴らしい賞を受賞でき、信じられない気持ちでいっぱいです。長期に渡って旅をし、リサーチを重ね、作品を制作した後に展覧会を開催するというような、アーティストの立場に沿って計画されたサポートの機会を得たのは今回が初めてです。半年間の滞在期間中に体験する、普段とは違うカルチャーや、新しい出会いをどう作品に反映させようかと考えています。他のアーティストも同じだと思いますが、これまで作品制作の傍らで教鞭を執ったり、プロジェクトを抱えたり、生活のための仕事も同時にこなさなければならなかったため、なかなか作品制作に集中することができませんでした。ですので、半年間のイタリア滞在という制作に没頭できる時間と場所が、自分をアーティストだと再確認できる貴重な機会であると同時に、この受賞の最も意義のあることなのではないかと思いません。」

ホワイトチャペル・ギャラリーのディレクターであるイウォナ・ブラズウィック OBE は、「ヘレン・カモックは音楽とアートを駆使した作品で知られ、複数の異なる分野を融合させるパイオニア的存在です。彼女は半年間の滞在を経て、ジャズやイタリアンオペラと、マックスマラーの創業地であるレッジョ・エミリア地方に伝わるプリントやフィルム、音楽の技術とを融合した作品を制作する予定です。それらは、きっと人々をハッとさせるものになるでしょう」と語りました。

編集者向け追記

- カモックの作品は最近ではロンドンのサーペンタイン・ギャラリーのサーペンタイン・シネマ・シリーズ、およびテート・ブリテンのテート・アーティスト・ムービング・イメージ・スクリーン・プログラムの一部として上映されています。加えて、ロンドンのキュービット、ベルリンのアルファ・ノヴァ&ギャラリー・フューチュラ、リーズのザ・テトリー、ロンドンのホリーブッシュ・ガーデンズで開催されたオープンソース・コンテンポラリー・アート・フェスティバルや 198 コンテンポラリーアート&ラーニングなどでも展示されてきました。雑誌『フォトワークス』と『アパチャー』にも寄稿し、2015 年にはブリッドポート・プライズの詩部門にノミネートされました。他にも、ザ・フォトグラファーズ・ギャラリーが発行する専門誌『ルース・アソシエーション』に掲載された他、ロンドンのブックワークスからアーティストブックと 12 インチレコードの形式で出版されています。また、カモックはブライトン・フォト・プリンジ・フェスティバルの共同ディレクターを 4 年間務めた経験もあります。現在は北アイルランドのヴォイド・ギャラリーの作品を制作中で、2018、2019 年にはサーペンタイン・ギャラリー、ノベルと共同でイギリスのレディング・インターナショナルのプロジェクトに参加することが決まっています。
- 2005 年にホワイトチャペル・ギャラリーの協賛で創設された Max Mara Art Prize for Women は、2 年毎に開催されています。イギリス国内で唯一の女性を対象としたビジュアルアート賞で、時間とスペースの贈与により、女性アーティストたちの能力を高める支援・育成を目的としています。受賞者にはアーティスト自身の制作と受賞した提案に合わせて用意された 6 か月の滞在が贈られます。アーティストはこの間、ホワイトチャペル・ギャラリーとイタリア、レッジョ・エミリアにあるコレツィオーネ・マラモッティにおいて新たな作品を発表する機会を与えられます。この賞は英国に居住し、英国を拠点に活動する、今までに個展を開催したことがない女性アーティストすべてを対象としています。マックスマラー、ホワイトチャペル・ギャラリー、コレツィオーネ・マラモッティが協賛し、賞の全選考過程に関わっています。ホワイトチャペル・ギャラリーのディレクター、イウォナ・ブラズウィック OBE が代表を務め、ギャラリー主催者、批評家、アーティスト、コレクターからなる審査団は、アーティストから提出された企画案をもとに 5 人の候補者を選出します。The Max Mara Art Prize for Women はブリティッシュカウンシル・アーツ・アンド・ビジネス・アワードを受賞し、受賞者のキャリアの前進に大きく貢献することが可能になりました。
- この賞の歴代受賞者は、以下の通りです：エマ・ハート(2015-17) – ハート(1974 年)は 半年間のミラノ、トーディ、ファエンツァ滞在中に、大規模な「Mamma Mia!」と題した作品を制作。
コリン・スウォーン(2013-15) – スウォーン(1976 年生)は、16 世紀イタリアの即興演劇「コメディア・デラルテ」からインスピレーションを受けた作品を制作。スウォーンは 2015 年、リーバーヒューム賞を受賞。国際的にすでに高く評価された業績をもち、将来の活躍が期待できる研究者に贈られる賞です。
ローラ・プロヴオスト(2011-13) – プロヴオストは、Max Mara Art Prize 展のために挑戦的な大規模なインスタレーションを制作し、2013 年のターナー賞を受賞。
アンドレア・ビュッナー(2009-11) – Max Mara Art Prize 展のために制作された絵画作品「The Poverty

of Riches」と「Untitled」(2011 年)がホワイトチャペル・ギャラリーを代表する展覧会「Adventures of the Black Square」(2015 年)で発表されました。

ハンナ・リッカーズ(2007-2009)ー受賞によって以前から追究していた意欲的な作品の制作を実現。2015 年、リーバーヒューム賞を受賞。2014 年にはモダン・アート・オックスフォードにて展覧会を開催。

マーガレット・サーモン(2005-2007)ーイタリアを旅し、母性をテーマとしたモノクロームのフィルム作品を制作。2007 年のヴェネチア・ビエンナーレで発表されました。

- マックスマラーファッショングループは 1951 年、アキーレ・マラモッティにより創立され、現在は次の世代が経営を担当しています。世界最大のレディース既製服の製造・販売企業のひとつで、100 カ国以上で 2462 店舗を展開しています。
- コレツィオーネ・マラモッティは、2007 年、イタリア、レッジョ・エミリアにオープンしたマックスマラーが所有する美術館です。この美術館は、現代アートのプライベートコレクションで、1950 年から 2000 年までの歴史的に重要な作品を集めています。常に新たなプロジェクトを立ち上げ、世界中の新進および中堅アーティストの作品を展示しています。詳しくは、www.collezionemaramotti.org をご覧ください。
- 一世紀以上にわたり、ホワイトチャペル・ギャラリーは、現代の巨匠から同時代の人々にいたる世界一流のアーティストの作品を発表してきました。当ギャラリーは、新人および著名な女性アーティストの作品を展示することで広く知られ、バーバラ・ヘップワース(1955 年)、エヴァ・ヘス(1979 年)、フリーダ・カーロ(1982 年)、ナン・ゴールディン(2002 年)、ソフィ・カル(2009 年)、ジリアン・ウェアリング(2012 年)およびサラ・ルーカス(2013 年)の主要な個展を開催しました。当ギャラリーは国際的に近代・現代芸術の礎を築き、ロンドンの文化社会で中心的な役割を果たしています。また、世界で最も活発な現代芸術地区の継続的な成長の中核となっています。